

第三者評価結果シート・コピー（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

福祉サービス評価センターさが

②評価調査者研修修了番号

S24267
S16057

③施設名等

名称：	洗心寮
施設長氏名：	調淨信
定員：	44名
所在地(都道府県)：	佐賀県
所在地(市町村以下)：	三養基郡基山町宮浦823-2
T E L：	0942-92-2818
U R L：	http://www.sensinryo.com/
【施設の概要】	
開設年月日	1945/12/28
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人洗心和合会
職員数 常勤職員：	28名
職員数 非常勤職員：	4名
専門職員の名称（ア）	栄養士
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称（イ）	里親支援専門相談員
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称（ウ）	家庭支援専門相談員
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称（エ）	心理療法担当職員
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称（オ）	被虐待児個別対応職員
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称（カ）	
上記専門職員の人数：	名
施設設備の概要（ア）居室数：	本体3棟11部屋、地域小規模4部屋
施設設備の概要（イ）設備等：	心理療法室
施設設備の概要（ウ）：	厨房
施設設備の概要（エ）：	地域交流スペース

④理念・基本方針

<p>洗心寮創設者恒願院殿の開設の精神「仏心者大慈悲是也」を体し、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して、総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成されるよう支援することを目的とする。</p> <p>洗心寮が目指す「援助・支援（養育）」は、子どもが自分の存在について「生まれてきてよかった」と意識的にも、また、特別の意識はなくてもそのように思うことができること、自信を持てるようになることを基本の目的とします。</p>
--

⑤施設の特徴的な取組

<p>平成24年3月に小舎制に移行し、施設内に4小舎、施設外に地域小規模児童養護施設を1か所運営しています。</p> <p>佐賀県東部地域に立地しており基山町、鳥栖市、みやき町、吉野ヶ里町、及び福岡県久留米市、小郡市とショートステイ契約を結び安心して子どもを預けることができます。</p> <p>平成28年度より、子ども家庭支援センターを併設し、地域の子育て支援業務を開始しました。</p>

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2016/9/5
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2017/1/23
受審回数	1回
前回の受審時期	平成25年度

⑦総評

<p>【評価の高い点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度より小舎制に移行し、より家庭に近い雰囲気や養育支援ができるよう、取り組まれている。 ・職員の資質向上のため、毎月、外部講師を招聘し、職員全員が出席するケース検討会が実施されている。 ・子どもの余暇活動として、希望者を対象にボランティアの講師による茶道・華道・ピアノ・空手などのクラブ活動が実施されている。 ・英語の学習にも取り組まれており、希望する子どもは、公文の英語教室で学習することができる。 ・異文化を肌で感じ、語学に興味を持ってもらいたいという思いから、留学生の受け入れも行われている。 ・地域の福祉向上の取り組みとして、ショートステイ事業、子育て相談が実施されている。 <p>【改善点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各小舎の移行で、職員の業務が多忙となり、子ども等とのコミュニケーションが十分に図れていない。 ・社会資源をより利用し、ボランティアの協力を得る検討が必要である。 ・外部監査の実施を期待したい。 ・子どもたちが清潔で温かみのある空間で生活できるという、屋内・外の生活環境の整備により配慮が必要である。
--

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

<p>2回目の第三者評価を行って頂き ご尽力いただいた評価者はじめ関係者各位に御礼申し上げます。前回 2014年に第三者評価を行って頂いた頃は 小舎制移行まもない時であり大舎制とは違う課題に取り組んでいた時期だったと振り返ります。それから三年が経ちようやく各家での落ち着いた生活が出来ていると感じております。</p> <p>本年度より地域小規模児童養護施設（若竹 定員6名）を町内に設置し より家庭的な生活を営んでいます。又 児童家庭支援センター（子ども家庭支援センター和合）を設置し地域の養育に関する相談援助業務 及び里親支援業務を中心に行える体制の整備を行いました。</p> <p>総評の中で評価の高い点であげていただいた ケース検討会議は全職員参加で月1回の実施を今後も実施していきます。里親の啓発活動に関しては 子ども家庭支援センターと協働し家庭的養護促進計画に沿い社会的養護の周知を図っていきます。ライオンズの下部組織であるあさがおレオクラブ（ボランティアクラブ）も本年度20年を迎え今後も継続して奉仕活動、国際交流事業受託等を通じ人間性豊かな児童を育てていきます。</p> <p>総評の中で改善点と挙げていただいた子ども等とのコミュニケーションが十分に図れていないご指摘は提案頂いたようなボランティアの協力が得られるようホームページなどを活用し周知を図ります。又、外部監査の実施など透明性の確保できる施設運営を検討していきます。</p>
--

⑥第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者 評価結果	
<p>① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念、基本方針が文書（事業計画等の法人・施設内の文書や広報誌、パンフレット、ホームページ等）に記載されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念は、法人・施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人・施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。</p>	b	1
【コメント】		
<p>リーフレット、ホームページなどに掲載し周知されている。職員研修会において、「理念から学ぶ養育のあり方について」を学習されており、今後も継続した研修会の実施を計画されている。子どもや保護者等への周知に向けて、説明や資料作成等の取り組みは行われていない。理念・基本方針については、各棟に掲示すると共に、保護者や子どもにもわかりやすいよう、説明を付すなどの工夫を行ったうえで周知が図られることが望まれる。</p>		

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果	
<p>① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。</p>	b	2

<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	
<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、法人・施設が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	○
<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	

【コメント】

施設長は、経営者協議会が主催する研修会への参加や、佐賀県家庭的養護推進計画の策定に参画することで、施設経営の動向の把握に努められている。中・長期計画や各年度の事業計画については、全職員が把握し計画を反映した支援が行われる事が望まれる。今年度より、施設外に地域小規模児童養護施設を1ヶ所開設し、子ども家庭支援センターを併設するなど新たな事業に取り組まれている。これからも、定期的に情報を収集をし、養育・支援のコスト分析等に取り組む事が期待される。

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b	3
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○	
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○	
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。		

【コメント】

経営課題を職員間で話し合い、小規模化に伴い「人員不足、スキル不足、コミュニケーション等不足」という課題が明らかにされている。このため、人員不足は1小舎2.5から3名へ増員を行い、スキル不足には研修委員会を立ち上げ研修ニーズに基づく施設内研修、他施設見学、施設外研修に取り組み、コミュニケーション不足には主任コンサルテーションを得て課題解決に取り組んでいる。施設長と職員等ですっきりと話し合い、一つひとつの課題に向き合い解決・改善へ引き続き取り組むことが望まれる。

3 事業計画の策定

(1)	中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果	
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b	4
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。		
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。		

【コメント】

「生まれてきてよかった」と思えるような日々の養育を行うことを通じ、佐賀県東部地域における養育モデルの提示を目標に掲げられている。しかし、具体的な取り組みまでには至っていない。中・長期計画は、課題・問題点の具体的な内容の評価、見直しを行うことが大切なことから、毎年の事業計画の策定において、施設長の独り歩きにならないように、それぞれの事業の目的を明らかにし、職員等の理解を得ながら計画が作られ、事業実施後はその評価を行うことが望まれる。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b	5
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画には、中・長期計画の内容を反映した単年度における事業内容が具体的に示されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。		
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。		

【コメント】

平成27年度事業計画より、地域小規模児童養護施設開始（現在6名の子ども）、児童家庭センター設置（子ども家庭支援センター）人員増、（保育士4名、調理師3名）家庭支援専門相談員の配置、里親支援専門相談員による里親啓発活動等に取り組まれている。里親制度推進のためフォーラムを佐賀市と鳥栖市で2回開催を予定されている。1歳児等のショートステイも実施されている。今後、職員の参画のもとで、中・長期計画を踏まえた単年度の計画については、実施状況の評価・見直し等を把握しながらの対応が期待される。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b	6
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。		
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。		
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○	

【コメント】

年度当初に事業計画を職員に周知する機会が設けられているが、職員の認識が不十分なため、事業の目的や内容の理解が乏し様に思われる。今後、全職員への理解を得るために、職員一人ひとりが事業計画に参画し、目的意識が持てるような対応が必要である。周知方法についても、回覧・決済を回すことで、事業内容を読み、認識し、理解を促す工夫が望まれる。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	c	7
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。		
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	○	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。		

【コメント】

事業計画が子ども会や保護者会で説明されているが、配布し周知するまでには至っていない。事業の目的と事業計画の理解を深める必要があることから、子どもや保護者への周知に向けて、分りやすく箇条書き等簡潔にしたものを作成し、職員一人ひとりが何時でも説明及び配布ができる体制が望まれる。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。

①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b	8
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。		
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。		

【コメント】

施設長は、子ども会等にて要望や改善すべき点の把握に努めており、職員会議にて改善策を検討し、結果を掲示する等の取り組みが行われている。しかし、養育・支援の向上につながる取り組みは、職員内で共通のものとなっていない。養育・支援については、PDCAサイクルの機能性を重んじた上で対応が必要である。年に1回以上の自己評価を行うことで、結果として分析ができ、今後の課題などが浮き彫りとなり、学ぶ機会になることから、その実施が望まれる。

②	9 評価結果にもとづき施設として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b	9
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○	

<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	

【コメント】

施設は、月2回の職員会議において各棟の課題の共有化を図っている。また、月一回実施するケースカンファレンスでは、外部講師によるアセスメント等の講義や個別のケース検討会などが実施され、個別ケースを全職員で検討することで、より一層のケースの理解に努めている。職員の多忙時の個別ケース検討については、担当や上司、専門職と、各小舎・小規模で話し合い課題を持ち寄っての対応を試み、必要に応じて改善計画の見直しができる体制を作ることが望まれる。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果	
① 10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b	10
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○	
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。		
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○	
<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(災害、事故等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。		

【コメント】

組織表を使い管理体制の周知が図られているが、広報誌等への掲載は行っていない。広報誌等を用いた施設長の役割と責任の表明が望まれる。施設長の不在時でも、連携は取れるように配慮されているが、夜間体制時等を含め、日常の有事(災害・事故等)に即対応できる配慮が必要である。想定外も起こり得ることを踏まえて、各棟に緊急時の対応を掲示するなど明確にし、安心安全に努めて欲しい。

② 11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b	11
<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○	
<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○	
<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。		
<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。		

【コメント】

十分な取り組みまでには至っていない。「コンプライアンス(法令遵守)」については、職員等の理解度が把握されていない状況であることから、今後、施設として遵守すべき法令等を分りやすく理解する機会を設け、社会規範に反することなく、公平、公正に業務遂行することができる認識が得られるような取り組みが期待される。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。		
① 12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	b	12
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。		
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○	
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○	

<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【コメント】

施設長は、毎日の朝礼や実習生への反省会議及び、リーダー会議などで、課題を把握し迅速に改善が行えるように取り組まれている。職員と施設長は、本音で話せる環境にあると見受けられることから、施設長は指導力を発揮し、養育・支援の質の向上に向けて職員や子ども等に毅然とした態度で臨み、メリハリをつけながら課題の改善に取り組まれることが期待される。

② 13 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	b
<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	
<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	

13

【コメント】

職員の希望にできるだけ沿って、年休等が容易に取得できるよう人員を増やし、勤務体制の改善に努めている。現場の状況把握において、職員側と隔たりが感じられることから、職員等とのコミュニケーションをより深め、職員の思いを受け止め、効果的な運営を目指して指導力を発揮されることが期待される。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	第三者 評価結果
① 14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	
<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○
<input type="checkbox"/> 法人・施設として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○

14

【コメント】

人材確保に向けて各養成校での授業実施を通じ、取り組まれている。現在、家庭支援専門相談員、心理療法担当職員、里親支援専門相談員等の専門員が確保されている。職員の入れ替わりがあり若い職員の方が多い状況にある。経験を積み重ね継続的に勤務している職員やOB等の存在が必要である。子どもの信頼を得るためにも、職員の定着について検討と、具体的な取り組みが望まれる。

② 15 総合的な人事管理が行われている。	c
<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にしている。	○
<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	
<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	
<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	
<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	
<input type="checkbox"/> 職員が、自ら将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みづくりができています。	

15

【コメント】

総合的な人事管理には至っていない。職員にとって、働きやすく将来に希望のある職場であることが望まれる。施設の運営が継続するために、また、職員と子ども等との信頼関係を築く上でも、職員が安心して日々の生活ができることが必要である。人事管理については、職員等と良く話し合い、今の現状をしっかりと見極めて、改善に向けての取り組みが望まれる。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b	16
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○	
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の悩み相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような施設内の工夫をしている。		
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	○	
	<input type="checkbox"/> 人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。		

【コメント】

昨年度、職場内の研修でハラスメント等の研修が行われている。ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の両立）等にも配慮されているが、職員が業務に追われ余裕をもっていないようにも見受けられる。職員自身がストレスを抱えこみバーンアウトにならないように、施設全体で問題を提起し見直しが必要である。職員の希望を情報収集しながら前向きに対応して戴きたい。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b	17
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標が設定されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりの目標の設定は、目標項目、目標水準、目標期限が明確にされた適切なものとなっている。		
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。		
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。		

【コメント】

職員一人ひとりの育成については、具体的な実施に至っていない。人材育成に関しては、施設長や主任、リーダー等の経験者による助言や支援及び学ぶ体制が必要である。職員一人ひとりと向き合い、職員の率直な意見、意向及び目標等を面接や調査等を通じて把握し、対応できる体制づくりに努めて戴きたい。改善が期待される。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b	18
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○	
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。		
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○	

【コメント】

施設では、研修会実施後には、必ずアンケートを取り評価と見直しを図るようにしている。非常勤職員を含む、全ての職員に対して、教育・研修が実施されている。今後の教育・研修については、職員と話し合いながら、施設が必要としている職員の専門技術や資格の向上に向けて計画的に実施されることが望まれる。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	b	19
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○	
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。		
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。		
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○	

【コメント】

階層に別れての研修の実施までには至っていない。必ず受けなければならない研修もあれば、勤務の都合で希望しても受けられない場合もある。職員一人ひとりの研修については、計画を立て勤務体制も把握したうえで実施できるような工夫が期待される。また、階層別研修等を受講する取組みも必要である。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b	20
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○	
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の教育・育成についてのマニュアルが整備されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。		
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○	

【コメント】

専門職の研修・育成については、実施できる事項については取り組まれているが、十分ではない。専門職種の特性に配慮したプログラムは準備できていない。実習生に対して、特性に配慮したプログラムを用意し、十分な内容の実習ができるよう体制に工夫が必要である。また、実習生を受け入れに際しては、対応する職員自身の研修も必要と思われる。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b	21
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人・施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。		
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公表している。	○	
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公表している。	○	
	<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人・施設の実存意義や役割を明確にするように努めている。	○	
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○	

【コメント】

情報公開にホームページ等が活用されている。事業案内、事業計画、事業報告、予算、決算情報、養育（援助・支援）方法、寮の日常、クラブ活動・イベント、活動レポート、年行事等が公開されている。印刷物として、開設70周年記念誌や情報紙「恒願」が発行されている。広報については、誰に対して、どのような情報を提供するのかわかる内容を見据えて、情報を積極的に公開していく対応が望まれる。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b	22
---	-------------------------------------	---	----

<input type="checkbox"/>	施設における事務、経理、取引等に関するルールが明確にされ、職員等に周知している。	○
<input type="checkbox"/>	施設における事務、経理、取引等に関する職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
<input type="checkbox"/>	施設における事務、経理、取引等について、必要に応じて外部の専門家に相談し、助言を得ている。	○
<input type="checkbox"/>	施設における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
<input type="checkbox"/>	外部監査の活用等により、事業、財務に関する外部の専門家によるチェックを行っている。	
<input type="checkbox"/>	外部監査の結果や公認会計士等による指導や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	
【コメント】		
前回の評価でも、外部監査についての必要性を伝えていたが、今後の実施を検討されている。新規事業にも取り組まれていることから、施設経営に関した改善策や課題の解決に向けて、外部の専門家による指導が必要と思われる。経理事務に携わる職員の負担軽減につながることも期待される。		

4 地域との交流、地域貢献

(1)	地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果	
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b	23
<input type="checkbox"/>	地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。		
<input type="checkbox"/>	子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○	
<input type="checkbox"/>	施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○	
<input type="checkbox"/>	子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○	
<input type="checkbox"/>	学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○	
【コメント】			
子どもクラブや地域の行事に積極的に参加している。夏休みのラジオ体操は、地域の児童と一緒に施設内の広場で行われている。子育てサークルへの地域交流スペースの貸し出し、お祭りへの地域児童やボランティア等の参加等で地域との交流が行われている。こうした地域との交流は、事業報告書に記載されていないため、これも事業の一環として報告に残し、地域との関わりについての問題点や課題、見直し等を踏まえた対応が期待される。			
②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b	24
<input type="checkbox"/>	ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○	
<input type="checkbox"/>	地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化している。	○	
<input type="checkbox"/>	ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○	
<input type="checkbox"/>	ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。		
<input type="checkbox"/>	学校教育への協力を行っている。	○	
【コメント】			
ボランティアの受け入れ担当職員を配置し、必要に応じて基山町社会福祉協議会との協働に努めている。ボランティアの方たちは、登録手続きを行い、マニュアルに基づいて活動されている。今後、施設への理解を深め、子どもとのトラブルや事故を防ぐため、ボランティアへの具体的な研修や支援に取り組むことが期待される。			
(2)	関係機関との連携が確保されている。		
①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b	25
<input type="checkbox"/>	当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。		
<input type="checkbox"/>	職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○	

<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	

【コメント】

個別のケース会議において、関係機関に参加を促しているが十分でない。日常的には、児童相談所、福祉事務所、公共職業安定所、保健所、病院、幼稚園、学校、地域外の施設などと連携が取られている。ケース会議への参加を促すため、関係機関等と一歩踏み込んだ積極的な取り組みが期待される。実施することでネットワーク体制が強化されることが望まれる。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

① 26 施設が有する機能を地域に還元している。	b	26
<input type="checkbox"/> 施設のスペースを活用して地域住民との交流を意図した取組を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かし、地域住民の生活に役立つ講演会や研修会等を開催して、地域へ参加を呼びかけている。		
<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かした相談支援事業、支援を必要とする地域住民のためのサークル活動等、地域ニーズに応じ住民が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。		
<input type="checkbox"/> 災害時の地域における役割等について確認がなされている。		
<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野に限らず地域の活性化やまちづくりに貢献している。	○	

【コメント】

民生委員児童委員、保護司等の視察研修は受け入れているが、研修会等の実施・参加にまでは至っていない。開かれた施設として、施設機能を地域に還元できるように、具体的な取り組みを実施されることが望まれる。地域住民の受け入れについては、自治会等に働きかけ、情報収集や話し合いにより、施設を地域住民のサークルや講演会等に開放する機会を設け、それを機に、ボランティアを育成し、施設内での活動へつながることが期待される。

② 27 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b	27
<input type="checkbox"/> 施設の機能を地域に還元することなどを通じて、地域の福祉ニーズの把握に努めている。	○	
<input type="checkbox"/> 民生委員・児童委員等と定期的な会議を開催するなどによって、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○	
<input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業を実施することなどを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。		
<input type="checkbox"/> 関係機関・団体との連携にもとづき、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○	
<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○	
<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。		

【コメント】

本年度は、子ども家庭支援センター（和合）や地域小規模児童施設（若竹）、ショートステイ事業等を開設され、地域支援活動の展開を実施されている。子ども家庭支援センターができたことで、地域との交流が深まり、住民との距離が以前よりも近くなっている。これからも、地域の状況を把握し、職員が一体となって施設の専門性を地域に活かす取り組みが望まれる。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。

① 28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	28
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○	

第三者
評価結果

<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援実施に関する基本姿勢が、個々の養育・支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

【コメント】

子どもの権利擁護は、運営の根幹であることを自覚されている。CAP研修会「子どもの暴力防止について」を定期的実施し、倫理綱領の輪読などの取り組みを行うことで、職員への周知徹底を図っている。施設として積極的に取り組まれている。自分から発信することが苦手な子どももいることから、そうした子どもには特に注意を払い、向き合って気持ちを受け止める対応が望まれる。

② 29 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した養育・支援の実施が行われている。	b	29
<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもの虐待防止等の権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。		
<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護と虐待防止に関する知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務、子どものプライバシー保護や権利擁護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。	○	
<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。		
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護と権利擁護に関する取組を周知している。	○	
<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○	
<input type="checkbox"/> 不適切な事案が発生した場合の対応方法等が明示されている。	○	

【コメント】

子どものプライバシー保護については、ホームページなどを利用し、権利擁護に関する事項を明示している。新任職員に対しては、採用後の研修会において養育マニュアル、危機管理マニュアルをもとに周知を図っている。家庭のように開放的な環境にするため、中・高生の個室の入り口に戸が設けられていない。いろんな状況や環境、年齢を考慮しながらプライバシー保護について、見直し及び対応が期待される。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

① 30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	b	30
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○	
<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○	
<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○	
<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。		

【コメント】

不安がある中、入所してくる子どもや保護者に施設の情報を提供するため、ホームページを随時更新するなどして、施設の様子が伝わるように努めている。子どもや保護者については、相手の状況や情報を収集したうえで、必要な情報の提供と、必要に応じて提供する情報の見直しを行い対応することが期待される。

② 31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b	31
--	---	----

<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等がわかりやすいように工夫した資料を用いて説明している。	○
<input type="checkbox"/> 説明にあたっては、子どもや保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	
<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	

【コメント】

入所の際は、児童相談所と協働し、子どもや保護者に分かりやすいように丁寧な説明を行い、理解を得るための工夫に努めている。今後は、意思決定の困難な子どもや保護者に配慮して、より分かりやすい文言を用いて資料やホームページ等作成し説明を行う工夫が望まれる。

③ 32 措置変更や地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b	32
<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○	
<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。		
<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○	
<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○	

【コメント】

権利ノートを用い説明が行われている。家庭支援専門相談員が兼務されているため、適切な対応とられている。引き継ぎ書については、引継ぎ先の機関によって違いがあり、先方の求める手順で引き継ぎ書を作成し対応されている。各機関とのネットワーク体制を図ることで、養育・支援の継続性が手順をさだめて行われてことが期待される。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。	第三者 評価結果	33
① 33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b	
<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。		
<input type="checkbox"/> 子どものへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○	
<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。		
<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。		

【コメント】

随時、子どもの意見の聴取に努められているが、子どもの満足度を把握するための具体的な調査は行われていない。子どもの目線に立って、子どもの満足度を調査し、具体的に改善を図る仕組みを整備する取り組みが期待される。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。		34
① 34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b	
<input type="checkbox"/> 苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○	
<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○	
<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録が適切に保管している。	○	
<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策については、子どもや保護者等に必ずフィードバックしている。	○	

<input type="checkbox"/> 苦情内容及び解決結果等は、苦情を申し出た子どもや保護者等に配慮したうえで、公表している。	○
<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	

【コメント】

各棟の棟の入り口に苦情箱が設置されている。苦情箱に封をして投函されたものは、主管の児童相談所へ送付されている。個別の苦情には、即対応を心がけており、それができない場合は子どもにわかるように説明するよう努められている。苦情内容や対応した内容について、子どもや保護者に不利にならないように配慮したうえで、公表や掲載ができる取り組みが期待される。

② 35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b	35
<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文章の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。		
<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○	

【コメント】

各棟に担当職員を3名以上配置し、時間単位でも複数の職員が配置ができるように勤務体制を調整されている。限られた時間の中で、子どもたちとのコミュニケーションにどのように取り組んでいくかが課題と言える。相談の内容に応じて、子どものプライバシーにも配慮した対応が期待される。子どもに対しては、聞き上手になって、相談を真摯に受け止めることが望まれる。

③ 36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b	36
<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○	
<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。		
<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○	
<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。		
<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○	

【コメント】

職場内の研修会で逐語録（一字一句文章を聞き取る等）を行う傾聴の訓練や、スーパーバイズの研修が計画されている。技術と併せて、より思いやりを持って子どもに寄り添い、接して戴きたい。業務の内容と、子どもの意見や相談に対応する時間との関係については、施設全体で話し合い、養育・支援の向上への取り組みが期待される。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者
評価結果

① 37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b	37
<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネージャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。		
<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもへの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。		
<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。		
<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。		

【コメント】

突発的な不適切行為に対応するため、肥前精神医療センターのCVPPP（包括的暴力防止プログラム）等の研修に参加されている。リスクマネジメントに対応する体制を整備し、子ども等の安全を確保することが必要である。子どもの安心安全のために、各小舎や小規模でのヒヤリハットの事例を積極的に収集・蓄積し、事故発生時の適切な対応について事前に検討し、それらに対応できる手順を整備することが望まれる。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し、職員に周知徹底している。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	
	<input type="checkbox"/> 感染症の発生した場合には対応が適切に行われている。	
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を定期的に見直している。	

38

【コメント】

感染症対策として、昨年度、研修会が実施されている。洗面所等にペーパータオルは設置されていない。予防対策として、うがい・手洗い等の手順等が洗面台に掲示されることが望まれる。感染症の対策には、栄養士が対応されている。集団の危険性を考慮し、感染症の予防対策として、外部の保健師など専門の指導を取り入れる検討も必要である。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類、養育・支援を継続するために必要な対策を講じている。	
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 防災計画等整備し、地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体等と連携するなど、体制をもって訓練を実施している。	○

39

【コメント】

防災計画を作成し、年に2回は、総合防災訓練として地域の消防団等と協働した訓練が実施されている。施設の傍に分団消防所が設置されている。訓練時は、職員や高学年の子ども等と共に、消火器での消化訓練等も実施されている。各小舎や小規模には、子どもに分りやすく、絵図や避難経路、消火器の場所等を掲示をすることが望まれる。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○

40

【コメント】

養育マニュアルに標準的な実施方法が記載されているが、職員への周知は、新任職員研修で取り扱うのみである。職員に対しては、定期的に養育・支援の標準的な実施方法を確認する仕組み工夫が必要である。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b	41
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。		
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。		
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○	

【コメント】

定期的な見直しの時期は定められていない。養育・支援に関しては、PDCAのサイクルによって、質に関する検討が継続的に行われて、定期的に必要な見直しを行うことが必要である。職員の共通意識を育て、全体で取り組みが実施されることが望まれる。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	b	42
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○	
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズが明示されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。		
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○	

【コメント】

月に1回2ケースのケース検討会議を年に10回程度開催されている。各小舎・小規模の利点で、子どもの身体状況や生活状況をより身近で把握し、ニーズを明らかにすることができる。上司や専門職の参画のもとで、定期的な個別の自立支援計画の見直しなどを、各棟で行う工夫が期待される。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b	43
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○	

<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。		
<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。		○

【コメント】

年に2回の見直し時期を決めており、各担当で作成し主任FSW（ファミリーソーシャルワーカー）がチェックする仕組みになっている。業務日誌には、手書きで細やかに個別の状況が記載され、それを記録作成のソフトに打ち込み、個人ケースや自立支援計画書に反映されている。手書きだと子どもを見守りながらの記録ができ、まとめてパソコンに入力することで、作業の簡素化が図られている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化している。	b	44
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○	
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○	
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○	

【コメント】

手書きで記載した業務日誌から、システムの個別のケース記録に入力し、管理を行っている。ケース記録は、きめ細やかに内容が分りやすく記載されている。情報が共有化されるなかで、状況によっては全職員に伝えてはならぬ情報や即伝えるべき内容等、また、担当者や責任者だけに情報を留めざるを得ない場合等の適応性に沿った取り組みが課題である。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a	45
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○	
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○	
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○	

【コメント】

記録の管理は、適切に行われている。記録管理については、職員一人ひとりが気を引き締めて、想定外も起こり得ることを理解して貰うことが大切である。パソコンを利用するため、情報の漏えいに対する対策や対応等の規定については、今後も慎重に取り組まることが望まれる。

内容評価基準（41項目）A-1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮		第三者 評価結果	
①	A1 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	b	A1
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容が子どもにとって最善の利益になっているかを、振り返り検証する機会が設けられている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもの養育や成長にとって何が最善なのかを、職員間において常に話し合える環境にある。	○	

<input type="checkbox"/> 職員が日々子どもとのやり取りを振り返り、必要に応じてスーパービジョンを受けられる環境が整っている。	○
<input type="checkbox"/> 受容的・支持的なかかわりを基本としながらも、養育者として伝えるべきメッセージはきちんと伝えるなど、子どもの状況に応じて適切な対応ができるよう、常に子どもの最善の利益を考慮し真摯に向き合っている。	○

【コメント】

月1回行うケース検討会議に、外部講師がスーパーアドバイザーとして入ってもらい、スーパーバイズが行われている。日常の業務では、主任がコンサルテーションと日々のスーパーバイズを行う体制がとられている。常に子どもの尊重と最善の利益を中心に掲げ、職員間や職員と子どもとの間で、十分なコミュニケーションがとられ信頼関係が築かれていることが大切です。思いやりを持って、良好な関係が保持できるように日々最善を尽くしていただくことが望まれます。

② A2 子どもの発達段階に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	a	A2
<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	○	
<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	○	
<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	○	
<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	○	

【コメント】

体系的な手順は作られていないが、個別のケースに応じて知らせる時期検討したうえで、適切にライフストーリーワーク（LSW）を行うように努められている。子どもが、自己の生い立ちを知ることは、子どもにとって辛く傷つくようなこともあるため、子どもの年齢及び状態を把握したうえでの対応が必要である。また、職員との信頼関係が構築されていることも重要となる。今後も時間をかけて、慎重に取り組まれることが望まれる。

(2) 権利についての説明

① A3 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	b	A3
<input type="checkbox"/> 定期的に全体場で権利についての理解を深めるよう、子どもたちに説明している。	○	
<input type="checkbox"/> 権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、施設生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	○	
<input type="checkbox"/> 年齢に配慮した説明を工夫している。(例えば高校生、中学生、小学生などに分けた説明の機会)	○	
<input type="checkbox"/> 定期的に職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	○	
<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないことまた、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。		

【コメント】

権利ノートを利用して、子どもに対して定期的な学習の機会が設けられており、権利の周知に努められている。職員についても、施設内や外部で学習の機会が設けられている。いじめや自殺等が多く報道されるなか、命の大切さや権利について正しく理解し学ぶ機会が必要となっている。子どもの年齢が状態に応じて、権利と義務・責任の関係について、子どもが理解できるように説明し、話し合う機会を持つ取り組みが望まれる。

(3) 他者の尊重

① A4 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	a	A4
<input type="checkbox"/> 基本的な信頼感を獲得するなど良好な人間関係を築くために職員と子どもとが個別にふれあう時間を確保している。	○	
<input type="checkbox"/> 喧嘩など子ども間でトラブルが生じた場合、相手の人格を尊重しながら、基本的には子ども同士で関係を修復できるよう支援をしている。	○	
<input type="checkbox"/> 日々の生活や行事等で、子どもが協働して行う場面では、助け合い、認め合い、協力し合い、感謝し合う態度を促進するよう支援している。	○	
<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど弱い立場にある仲間に対しては、思いやりの心をもって接するように支援している。	○	

【コメント】

職員が子どもとの個別の時間が持てるよう努められている。子どもに対して、施設全体で思いやりと笑顔で接する雰囲気が必要です。職員や子どもが常に「ありがとう」が言えるような心を育てて戴きたい。そのために、職員が率先して、笑顔で挨拶や感謝等の言葉かけが必要である。また、円滑な人間関係を育てていくため、同・異年齢交流の機会等を設け、ふれあいを通じて自他の権利を尊重できる人間性を養うことができる援助を継続的に行って戴きたい。

(4) 被措置児童等虐待対応

①	A5 いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a	A5
	<input type="checkbox"/> 「就業規則」等の規程に体罰等の禁止を明記しており、規程に基づいて厳正に処分などを行う仕組みが行われている。	○	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待防止ガイドラインに示されているような具体的な例を示して、日常的な会議や研修会等で体罰等を禁止している。	○	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等への虐待行為や不適切対応があった場合、主管行政窓口や児童相談所等に報告するとともに第三者委員等も入れて適切な調査をし、対処することが出来ている。	○	

【コメント】

職員会議を開催する前に倫理綱領の輪読を行い、被措置児童の虐待防止に努めている。また、その旨を「就業規則」に規定されている。職員の体罰を防止するために、職員がストレスを抱え込まないように、お互いに気配りができる環境が必要である。また、日ごろから体罰等の不適切な対応の起こりやすい状況や場面について検証し、冷静に振り返る機会の工夫も必要である。

②	A6 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b	A6
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や方法・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行うような仕組みがつけられている。	○	
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりを発見した場合には、記録し、必ず施設長等に報告することが明文化されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 暴力、人格的辱め、心理的虐待などの不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示し、職員に徹底している。	○	
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止を徹底するため、日常的に会議等で取り上げ、行われていないことを確認している。	○	
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示して、子どもに周知している。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けている。	○		

【コメント】

施設内の研修において、職員を対象とした不適切なかかわりを防止するための研修が実施されている。施設での養育・支援にの現場において、職員一人ひとりが、子どもに行動や態度を見られていることを意識しつつ、目配り気配りで子どもを見守って頂きたい。また、日頃より言動に注意し、節度ある真摯な態度で子どもに接することで、信頼関係を構築することが期待される。

③	A7 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	a	A7
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について、対応マニュアルが整備され、かつ日常的に活用できるようにしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告があった場合に、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができています。	○	
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明しているとともに、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	○		

【コメント】

風通しの良い組織運営を目指し、職員間のコミュニケーションが取れる体制の整備に努められている。被措置児童虐待が疑われる事案が生じた際は、第三者を入れて検討が行われている。

(5) 思想や信教の自由の保障

①	A8 子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障している。	b	A8
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由については、最大限に配慮し保障している。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設において子どもの思想や信教の自由を保障しようと努めているが十分ではない。		
	<input type="checkbox"/> 保護者等の思想・信教によってその子どもの権利が損なわれないよう配慮している。	○	

【コメント】

隣接する因通寺内に戦争羅災児救護教養所として洗心療が開設されて、今年で70周年を迎えられている。子どもの思想や信教に規制はなく、その自由を保障されている。施設の理念等に仏教の思想が取り入れられており、「感謝」や「奉仕の心」、「命の尊さ」等を学ぶために利用されている。

(6) こどもの意向や主体性への配慮

①	A9 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	b	A9
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎える準備をしているなど様々な工夫を凝らし、受け入れについて施設全体で行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 被虐待体験だけでなく、子どもの分離体験に関して施設側が理解し、配慮している。	○	
	<input type="checkbox"/> 分離体験からの回復に関する課題への具体的な取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 入所の相談から施設での生活が始まるまで、子どもや保護者等への対応についての手順を定めており、定期的に見直しを行い、実践している。		

【コメント】

施設では、日常生活が安心して安全な環境と思えるように配慮ある態度と言動に努めている。入所については、これまでも経験されていると思います。そこで、問題点や課題などを手順に踏まえながら、見直しを行うなどの取り組みにより、事例検討会など実地できる体制が必要である。

②	A10 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組んでいる。	b	A10
	<input type="checkbox"/> 生活改善に向けての取組を職員と子どもが共に考え、実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> 生活日課や生活プログラムは子どもとの話し合いを通じて策定している。		
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	○	

【コメント】

施設では、各家において生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に行うようにしている。しかし、職員より、生活改善策に向けての職員と子どもで話をしてもお互いの意見が一致していない場合もあるとのこと。職員と子どものコミュニケーションが図れていない。子どものアンケートで「自分らのことを道具だと思っている。そんなことはないと言っても実際子どもの自分たちがいるところでは何にも言えない」などの声である。職員自身が、全身全霊で子どもの目線に立って顔を突き合わせて、諦めないで子どもの話に耳を傾けて戴きたい。良いこと、悪いことはしっかりと子どもに納得する様に話し合うことである。

(7) 主体性、自律性を尊重した日常生活

①	A11 日々の暮らしや、余暇の過ごし方など健全な生活のあり方について、子ども自身が主体的に考え生活できるよう支援している。	b	A11
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもの趣味や興味、生活文化にあった生活になるように子どもの意見を反映させ、適宜改変している。	○	
	<input type="checkbox"/> 図書、雑誌、新聞等、またテレビ、ビデオ、オーディオ等が、子どもの健全な発達に考慮したうえで、自由に使用できる。また、ゲームの適切な使用の配慮がされている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもが主体的に生活に関わることができるよう工夫がされている。		
	<input type="checkbox"/> 活動に対して自発的な参加を促すよう支援している。	○	
	<input type="checkbox"/> 行事等の参画について、子ども一人ひとりの選択を尊重している。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもが地域の活動等に参加することを望む場合、可能な限りそれに応えている。	○	

【コメント】

施設では、子どもの意思を尊重する様にしている。職員は年齢が上がるにつれて子どもの不満が増えてくること。施設では、施設内クラブ活動があり、野球、バレー、茶道、華道、ピアノ、空手等行われている。また、「あさがおレオクラブ」というボランティア・ライオンズクラブの支援より「YCE事業」として、「レオクラブ」から3名の海外派遣され海外からもマレーシア、イタリア、スイス、シンガーホール等からも来日があるなどの活動が充実している。ただ、日常の余暇の過ごしについては、子ども等のくつろぐ場所の整備が望まれる。

②	A12 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	b	A12
	<input type="checkbox"/> 小遣い帳や通帳を使って、限られたお金を計画的に使用する、金銭の自己管理ができるよう支援している。	○	
	<input type="checkbox"/> 大人と一緒に買物に行ったり、一人で買物をさせるなど物の値段の相場や、金銭感覚が身につくよう支援している。	○	
	<input type="checkbox"/> 自立を控えた子どもなど、必要な子どもに対し、一定の生活費の範囲で生活することを学ぶプログラムを実施している。		
	<input type="checkbox"/> 児童手当等について、子どもの目的にあわせ適切に使用または貯蓄をしている。	○	

【コメント】

施設は、小遣いは年齢によって決めて金額を手渡しをして、小遣帳は記載する様にしている。ただ、夏、冬の休日時帰省して小遣を貰い、その旨を伝えないで保護者も黙っている。そのことで子ども内にも金銭のトラブル（お金が取られた等）がでているので今後の課題であるとのこと。また、施設長より、一定の生活費の範囲で生活することを学ぶプログラムを実施していない。今後は、社会人として退園する前に自活訓練の体験も必要と思われる。

(8) 継続性とアフターケア

①	A13 家庭復帰にあたって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう復帰後の支援を行っている。	b	A13
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰にあたって復帰後の生活を検討している。		
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや家族の状況把握や支援方法など関係機関との役割を明確にしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰相談を受けることを本人、保護者等に伝えている。	○	
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや保護者等の状況の把握に努め記録を整備している。	○	

【コメント】

施設よると家庭復帰に関しては、関係機関の集まりでのカンファレンスで役割の検討を行っている。家庭支援専門員相談員が配置されているので、家庭復帰後には問題点が多く困難と思われるが、今後の対応を期待したい。子どもや保護者が何時でも悩みや相談を受け入れる一時的に宿泊や再生ができる環境整備の検討も必要と思われる。施設だけでは多くの問題が蓄積して現状では困難である。これからは公的機関やボランティア等の社会資源を最大に利用しながらの対応を期待したい。

②	A14 できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	b	A14
	<input type="checkbox"/> 高校進学が困難な子どもや高校中退の子どもなどについて措置継続を行い、自立に向けた支援を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 措置延長の期間は、就労支援や就労生活を支援するなど、自立への道筋をつけていく取組を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。		

【コメント】

現在、高校を中退して美容学校に通学している子がいる。就職しても金銭、住居、就業等、各種のさまざまなトラブルで問題が起こるための対応に苦慮されている。措置延長も大切です。しかし、子ども自身に目標を持つことができるように、そして、自立できるような取り組みを考えて戴きたい。そのためにも、学力も必要ですが良く子どもと話し合い、技術を身に付ける等の方向性も考えてボランティアや公的支援なども必要である。

③	A15 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b	A15
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○	

<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	
<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○

【コメント】

施設では、少なくとも三年間は退所後のケア対象として相談に当たっている。リービングケアについては、支援は行われていない。また、職員より、退所者に対する対応や記録をしていない子もいる。リービングケアとは、児童養護施設の子どもの等を社会に送り出す「出助け」で自立に向けた準備です。そのためにも、退所者の自活寮などの設置や支援を検討する必要がある。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本	第三者 評価結果	
① A16 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。 <input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。 <input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。 <input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。 <input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。 <input type="checkbox"/> 子ども達に職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	b	A16

【コメント】

施設では児童養護施設運営マニュアル、「この子を受け止めて育む為に」などの輪読を通し心理的側面の理解に努めている。子どもの言動や、心情の理解に向けてどう受け止め、どう対処するかが課題であるが、これには職員同士や、職員と子どもとのコミュニケーションや信頼関係が必要である。子どもの心の思いを真摯に受け止めて、愛情を持って乗り切って頂きたい。

② A17 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。 <input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を把握している。 <input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。 <input type="checkbox"/> 高齢児の日課は、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。 <input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。 <input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。 <input type="checkbox"/> 夜目覚めるとき大人が存在が感じられるなど安心感に配慮している。	b	A17
--	---	-----

【コメント】

子どもと職員との関係性を重視しており、代替家庭として機能することが基本だと自覚されている。反面、子どもとの時間を沢山設けたい意思はあるが、十分に取れない状況にある。職員間で理解を深め、子ども一人ひとりと触れ合う時間を取る体制に取り組んで戴きたい。

③ A18 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切に、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	b	A18
---	---	-----

<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	○
<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	○
<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況的的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	
<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	○
<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	○

【コメント】

子どもが自ら判断し行動できるよう、職員の配置に配慮し援助でされているが、十分ではない。小舎や小規模になって、職員の配置に配慮されているが、多忙な朝は起床、食事の準備、配膳、衣服の世話、学校の準備の確認等に追われている。子ども一人ひとりが、自覚した行動ができるよう、自立に向けた取り組みが必要である。毎日の挨拶や感謝等の言葉は、職員が率先して笑顔で声掛けをして頂きたい。

④	A19 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	b	A19
	<input type="checkbox"/> 施設内での保育が、年齢や発育状況に応じたプログラムの下、実施されている。		
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握できている。必要性があれば可能な限りニーズに応えている。	○	
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。		
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	○	
	<input type="checkbox"/> 幼稚園に就園させている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(ボランティア等)が十分に活用されている。		

【コメント】

1歳児からのショートステイを実施されている。幼児は、幼稚園に就園している。特別支援教育として、地域小規模児童養護施設を開設されている。各小舎や小規模は、幼児・小・中・高校等が縦割り部屋分けされ、異年齢の交流を図ることができる。職員は、子どもの見守りと、生活の支援で遊びの保障までには至っていない。今後は、外部からのボランティア等社会資源を活用を検討し、年齢段階にあった学びや遊びの環境が用意・利用されることが望まれる。

⑤	A20 秩序ある生活を通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b	A20
	<input type="checkbox"/> 職員の指示や声かけが適切で、施設全体が穏やかな雰囲気です秩序ある生活が営まれている。	○	
	<input type="checkbox"/> 普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設生活・社会生活の規範等守るべきルール、「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解できるよう子どもに説明し、責任ある行動をとるよう支援している。	○	
	<input type="checkbox"/> 見やすくわかりやすい掲示物など、子どもが社会生活を営む上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。		
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会的ルールを習得する機会を設けている。		

【コメント】

職員が大人の理想形となるよう、明朗に行動するよう心掛け、基本的な生活習慣や技術が習得できるよう支援されている。職員が立ち振る舞いや、言葉使いなど礼儀作法等を普段の生活の中で示すことが必要である。また、社会生活で守るべきルールを職員と子どもと一緒に学ぶ機会を設けていただくことが期待される。ボランティアの協力を得て実施されることも期待される。

①	A21 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	b	A21
	<input type="checkbox"/> 食事の時間が適切で、食事を通して生活のリズムが形成されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 無理なく楽しみながら食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	○	
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれている。		
	<input type="checkbox"/> 食事の時間が、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	○	
	<input type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり、盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫など、食事をおいしく食べられるように工夫している。	○	
	<input type="checkbox"/> クラブ活動等子どもの事情に応じて、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設外での食事、来客を迎えての食事など、食事を楽しむ多様な機会を設けている。	○	

【コメント】

食事の場所は、明るく楽しい雰囲気になるよう、会話に心がけ談笑しながら食事できるように努めている。食事のマナーを伝えることも、日常的に行われている。茶碗などは、子ども一人ひとり好みにより違うものが選ばれている。弁当は品数多く、盛り付けも見た目に配慮した内容となっている。小舎の食堂（居間）は、無垢の木の雰囲気が良好で、座席は掘りごたつとなっている。体の小さい子どもの食堂としては工夫が必要と思われる。

②	A22 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	a	A22
	<input type="checkbox"/> 配慮のこもった献立であるとともに子どもの発育に必要な栄養摂取量を満たした食事を提供している。	○	
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢、障害や疾病、食物アレルギーなど子どもの心身の状況、また体調など日々の健康状態に応じ、それらに配慮した食事を提供している。	○	
	<input type="checkbox"/> 少数の子どもを対象として家庭的な環境の下で調理するときであっても、配慮のこもった献立であり栄養面も勘案されるよう、献立について振り返る機会がある。	○	

【コメント】

施設では、年に1回アンケートの実施を通じて嗜好状況を分析し献立に反映させている。また、部活動で体を動かす子どもには、食事・弁当の量も相応に増やしたものが提供されている。地域小規模児童養護施設では、本施設のメニューに添って職員がレシピを見ながら食事を作っている。

③	A23 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	b	A23
	<input type="checkbox"/> 食習慣の習得を、無理なく楽しみながら身につけられるよう工夫している。	○	
	<input type="checkbox"/> 日々提供される食事について献立の提示等食に関する情報提供等を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 食品分類やおやつのはり方等、栄養についての正しい知識を教えている。	○	
	<input type="checkbox"/> 偏食の指導を適切に行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会をもち、食文化を継承できるようにしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 買い物を手伝って材料の選び方を知る機会を設けている。		
	<input type="checkbox"/> 箸、ナイフ・フォーク等食器の使い方や食事のマナーが習得できるよう支援している。	○	
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつを作る機会を設けている。	○	
	<input type="checkbox"/> テーブル拭き、食器洗い、食器消毒、残飯処理など食後の後片づけの習慣が習得できるよう支援している。		

【コメント】

食品の買い物は、納入業者からの購入のため、買い出しの手伝いなどは行われていない。地域小規模児童養護施設から段階的に取り組みが検討されている。食事は、子どもが家事の手伝いが学べる機会でもあることから、職員と子どもで日々繰り返し（テーブル拭き、食器洗い、残飯処理、片づけなど）一緒に一つ一つ手順を説明し納得できるように、そして、子ども等が楽しんで行われるように支援することが望まれる。

(3) 衣生活

①	A24 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	b	A24
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。		
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 靴についても清潔で体にあつたものが提供され、汚れや水濡れにも適切に対応している。	○	
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。		
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	○	
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	○	
	<input type="checkbox"/> 発達段階や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	○	

【コメント】

職員が子ども等と一緒に、年に2回、衣類の買い物が行われている。日常の衣類の整理整頓が十分にできていないように感じられる。子どもと話し合いながら、職員と一緒に整理整頓を手伝うことで、子ども自身で衣生活の管理ができるように促す支援が望まれる。

(4) 住生活

①	A25 居室等施設全体がきれいに整美されている。	b	A25
	<input type="checkbox"/> 庭がきれいに清掃され、樹木や草花の植栽にも配慮が届いている。		
	<input type="checkbox"/> 室内は明るく、花や絵画が飾られるなど、温かみのある環境になっている。		
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	○	
	<input type="checkbox"/> トイレ、洗面所等は性別や年齢に応じて使いやすいように配慮している。	○	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、冷暖房設備を整備している。	○	
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れていたり壊れていたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。		
	<input type="checkbox"/> 発達段階や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。		

【コメント】

建物内は木の温かみがあり、吹き抜けのあるリビングは居心地の良い空間である。小舎・小規模の特性を生かし、子どもたちの絵画や図工作品、花を飾るなど、より生活感のある家庭的な施設となることが望まれる。また、洗面台の排水溝の詰まりが見られる等、室内の掃除が行き届いていない。子どもの発達段階に応じて整理整頓や掃除の習慣が身につくよう支援が望まれる。庭には、樹木や花が少なく、雑草も見られる。子どもを取り巻く住環境を整備することにより、暮らす子どもが大切にされているというメッセージを感じられるよう、施設全体での取り組みが期待される。

②	A26 子ども一人ひとりの居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	a	A26
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	○	
	<input type="checkbox"/> リビングや居室は子どもが安心していられる場所になるような配慮がされている。	○	
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	○	
	<input type="checkbox"/> 年少児の居室は、職員の目の届きやすいところに配置している。	○	

【コメント】

居室を仕切り、個別スペース確保されている。また、それぞれの個別スペースには、そこを使う子どもが好きなようにポスターや写真を飾っており、一人ひとりの居場所となっている。しかし、廊下側に面したスペースは、廊下から中が覗くことができるため、プライバシーの保護が不十分である。子ども話し合い、帰るとほっとできる家庭的な空間となるよう、目線に合わせて改善が望まれる。

(5) 健康と安全

①	A27 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	b	A27
	<input type="checkbox"/> 常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄、生理等の状況を職員がきちんと把握している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 手洗いやうがいの習慣が身に付くよう支援している。年少児については排泄後の始末や入浴の介助をしている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 洗面、整髪、ひげそり、歯磨き、つめ切り、耳そうじ等身だしなみについて、発達に応じて自ら行えるよう支援している。また必要に応じて入浴やシャワーが利用できるなどの配慮がされている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 定期的に理美容をしている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 寝具の日光消毒や衣類などを清潔に保つなど、衛生管理ができるよう支援している。また夜尿のある子どもについては、子どもの自尊心に配慮しながら支援している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 施設内外における危険箇所等を把握し、子どもの発達段階に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもの交通事故を防止するため、交通ルール等について日頃から子どもに教えている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

衛生管理について、手洗い後の処理については、ペーパータオルやアルコール消毒液の導入等を検討されることと望まれる。また、各小舎の共用スペースについては、子どもたち自身が気付き、清潔に保つことが習慣となるよう支援されることを期待する。衛生管理について、看護師、保健師などの専門家を講師に招き、子どもたちに学習する機会を設けることも、自覚を促すことにつながると思われる。

②	A28 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a	A28
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> あらかじめ関係機関の協力が得られるよう体制整備をしている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

日頃より、主治医や他の医療機関とも連携に取り組んでいる。また、昨年度は、薬剤師を職員研修に招いて研修が実施されている。子どもの服薬に関しては、個別の薬ノートを担当職員が管理し、子どもが飲んでいる薬を把握している。衛生管理について、保健所などから専門家を招いて学習する機会を設けることで、知識を深めることが期待される。

(6) 性に関する教育

①	A29 子どもの年齢・発達段階に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a	A29
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達段階に応じたカリキュラムを用意し、支援している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性教育のあり方について学習会などを職員や子どもに対して実施している。	<input type="radio"/>	

【コメント】

今年度、中央児童相談所と職員で組織した委員会が協働し、性教育プログラムを実施し終了されている。幼児・小・中・高校と年齢が縦割りの環境である。小舎・小規模内では、一人の職員が複数の子どもを見守ることになるが、年長の子どもから年少の子どもへの性的な加害・被害関係が起こることがないよう異性間のみならず、同性等でも日常生活の場面での十分な目配り気配りが必要である。

(7) 自己領域の確保

①	A30 でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とすようにしている。	a	A30
	<input type="checkbox"/> 子どもが小さい頃から、自他の境界線がわかるような支援方法を心がけている。	○	
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	○	
	<input type="checkbox"/> 個人の所有物が保管できるよう個々にロッカー、タンス等を整備している。	○	
	<input type="checkbox"/> 紛失防止のためにも、個々の子どもたちに片付け方を教えている。	○	
	<input type="checkbox"/> 個人所有の物は、でき得る限り子どもの好みを尊重している。	○	
	<input type="checkbox"/> まだ字が読めない子どもに対しては、イラストマークを使用するなどして、所有物がわかる工夫をしている。記名やマークは、でき得る限り子どもからの許可を得、子どもが恥ずかしがらなくても済むような場所に留める。	○	

【コメント】

食事に使用するコップ、はし、茶碗等は個人のものとなっている。小舎のクローゼット（棚）は、スペースに合うように職員の手作りである。このため、衣類の中身が見えるので、中身が見えないようにカーテンを付ける等の整備が必要と思われる。居室内の個室の空間が狭いので片づけには、職員の支援が必要と思われる。身の回りのことは自分で整理整頓できる習慣を身につけるよう支援していただきたい。

②	A31 成長の記録（アルバム等）が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	b	A31
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録（アルバム等）が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集、整理に努めている。	○	
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返ることができ、子どもの生い立ちの整理につながっている。	○	
	<input type="checkbox"/> 可能な子どもとは共に、成長の記録（アルバム等）を整理している。	○	
	<input type="checkbox"/> アルバム等は年齢や状況に応じて個人が保管し、子どもがいつでも見ることができる。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもが施設を退所する時に、成長記録（アルバム等）が手渡されている。	○	

【コメント】

担当職員が、それぞれの子どもの写真を管理している。子どもが何時でもアルバムを見るようにはされていない。成長の記録は、その作成過程で子どもが自分の生い立ちを確認し、アイデンティティーを確立する助けになることから、職員が子どもと一緒に写真を整理し、整理されたアルバムは、個人が所有し、いつでも見ることができるようになっていたことが望まれる。

(8) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A32 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b	A32
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の影響を施設全体で立て直そうと努力している。	○	
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	○	

	○
--	---

【コメント】

行動上の問題のある子どもに対しては、児童相談所、専門職を入れて協議し、適切に対応できるよう努められている。また、行動上の問題外発生した場合には、専門家を入れてその後の対応を検討し、対応策は職員間で共有するよう配慮されている。施設内には職員の目の死角があることから、全職員で子どもを見守る体制が必要である。一つひとつの事例を記録し、今後の対応に備え、それに基づいたマニュアル化する事も必要です。また、行動上の問題のある子どもを担当する職員の心的ストレスに配慮したケアが望まれる。

②	<p>A33 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。</p>	b	
	<input type="checkbox"/> 人権に対する子どもの意識を育むよう支援をしている。日頃から他人に対する配慮の気持ちや接し方を職員が模範となって示し、子どもへ説明をしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○	
	<input type="checkbox"/> 課題を持った子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合については、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	○	

A33

【コメント】

施設内での子ども間の暴力、いじめ、差別などについては、機会あるごとに暴力は許さないことを伝え、この施設が子どもにとって安心で安全な場所となるよう努められている。子ども間のいじめや暴力は、職員の死角となる場所で行われることを考慮し、施設内の構造を把握し、そうした場所に子どもが集まっていないか、注意が必要である。職員は、目配りや気配りで、いじめや暴力の発生を予防する対応が望まれる。また、明るい笑顔で声掛けをして戴きたい。

③	<p>A34 虐待を受けた子ども等、保護者等からの強引な引取りの可能性がある場合、子どもの安全が確保されるよう努めている。</p>	b	
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りのための対応について職員に周知徹底している。	○	
	<input type="checkbox"/> 引取りの可否等について、児童相談所との連絡を適宜行い、判断が不統一にならないようにしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 緊急時には協力を依頼できるよう、警察との連携を図っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りが考えられる場合、他の子どもへの安全についても配慮がされている。		

A34

【コメント】

保護者からの強引な引き取りの可能性がある場合、子どもの安全が確保されるよう努められている。小舎、地域小規模児童養護施設がそれぞれ独立して建てられているため、外部から、直接、各棟の玄関に出入りできる。各棟においては、対応する職員が少数であることから、防犯カメラや緊急時の警報機の設置等検討したうえで、子どもの安全の確保に取り組んで戴きたい。

(9) 心理的ケア

①	<p>A35 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。</p>	b	
	<input type="checkbox"/> 心理的な支援を必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。		
	<input type="checkbox"/> 心理的なケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	○	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて心理の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 心理的支援を行うことができる有資格者を配置し、心理療法室を設置している。	○	
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	○	

A35

【コメント】

常勤の臨床心理士が配置され、ケアが必要な子どもについては、職員の心理的配慮等の助言が行われている。臨床心理士の心理支援プログラムを職員が把握し、施設全体で連携した支援が必要です。子どものアンケートの中に「自分だけの居場所がない。イライラする」など。施設において、職員一人ひとりが子どもの心に寄り添って信頼関係を築くことで、日々、安心して落ち着いた生活ができるように対応が望まれる。

(10) 学習・進学支援、進路支援等

①	A36 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	b	A36
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるように個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。	○	
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。		
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。		
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 障害を持つ子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○	

【コメント】

学習支援については、学校から提供される課題を職員とともに行うようにされている。子ども個々の学力に応じた個別的な支援が望まれる。日常の学習において、子どものニーズに応じて学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等の活用を検討されたい。落ち着いた生活環境の中で自己肯定感を育み、自分の将来に希望や目標が持てるよう、日々の支援が望まれる。

②	A37 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b	A37
	<input type="checkbox"/> 早い時期から進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 奨学金など進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報等も提供している。	○	
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。		
	<input type="checkbox"/> 中卒児・高校中退児に対して、就労させながら施設入所を継続することで十分な社会経験を積めるよう支援している。		
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて努力をしている。		

【コメント】

高校を中退した子どもに関しては、退園後の就業のため専門学校に通学している事例がある。学業成績が低い場合でも、卒業後に就職し生活できるよう、資格取得のための支援が行われている。また、子どもの成績や特技、将来の希望等の状態を把握しながら、就労に向け、ヤングハローワーク等職業安定所の協力を得て、支援されている。社会見学、職場体験等の実施により具体的イメージを持って将来の職業を選択できるような取り組みが期待される。

③	A38 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b	A38
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	○	
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	○	
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。		
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。		

<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○	【コメント】 高校生には、社会経験を積むため、学校側の規則に反しないところでアルバイトをさせている。日常生活において、自立に向けた具体的な目標及び計画立て、資格習得など早めに準備するなどの対応が望まれる。施設を巣立つことへの不安を和らげつため、社会の仕組みや自分の適性を知る機会を提供できる支援が必要である。
(11) 施設と家族との信頼関係づくり		
① A39 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。 <input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。 <input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかがわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。 <input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	b ○ ○ ○ ○	A39
【コメント】 家庭支援専門相談員は、施設内の業務と兼務されている。家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係の調整ができるよう体制の整備が望まれる。また、児童相談所以外に、保護者等の居住されている市町村との連携も図り、家族と子どもの関係調整に取り組まれることも期待される。		
(12) 親子関係の再構築支援		
① A40 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。 <input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	b ○ ○	A40
【コメント】 施設の重要な目標として親子関係の再構築が挙げられます。親子関係の再構築には、家庭支援専門相談員を中心に、児童相談所等の関係機関と密接に連携を取り、子どもと保護者等との状況を把握しながら真摯な対応が必要である。また、支援計画を明確にし施設全体で共有化され取り組まれることが期待される。		
(13) スーパービジョン体制		
① A41 スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> スーパーバイザーを配置し、いつでも相談できる体制を確立している。 <input type="checkbox"/> 職員に対するスーパービジョンを定例的に行い、職員がひとりで問題を抱え込まないように、スーパーバイザーなどを通じて、組織としての働きかけをしている。 <input type="checkbox"/> スーパーバイザー以外にも職員相互が評価し、助言し合うことを通じて、職員一人ひとりが支援技術を向上させ、施設全体の支援の質を向上させるような取組をしている。 <input type="checkbox"/> スーパーバイザーは、職員からの信頼が得られるよう、研修に参加するなど質の向上に努めている。 <input type="checkbox"/> 国が定める基幹的職員を設置している。	b ○ ○ ○	A41
【コメント】 施設内にスーパーバイザーを配置し、スーパービジョンの体制の確立に向けての取組が必要である。各小舎・小規模に移行したことで、職員の責任が増しておりバーンアウトになることが危惧される。基幹的職員を中心に職員相互に評価し、助言しあえるチーム支援の取り組みが望まれる。また、その取り組みにより、職員に支援技術の向上、組織力の向上につながることを期待される。		